

統計からみる がん

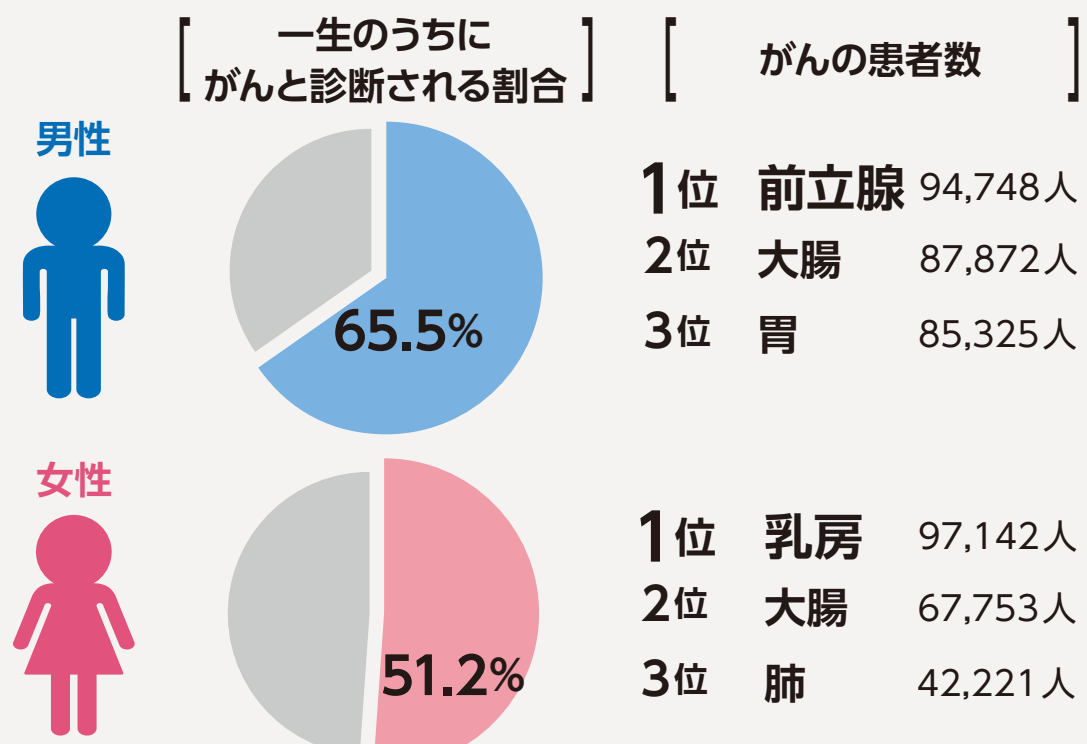
がんは、医療の進歩によって不治の病から治る病へとなりつつあります。がんを治すためには、定期的に検診を受け、進行する前に発見・治療することが大切です。

監修 東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座
特任教授 中川恵一



日本人の2人に1人が **がんにかかる！**

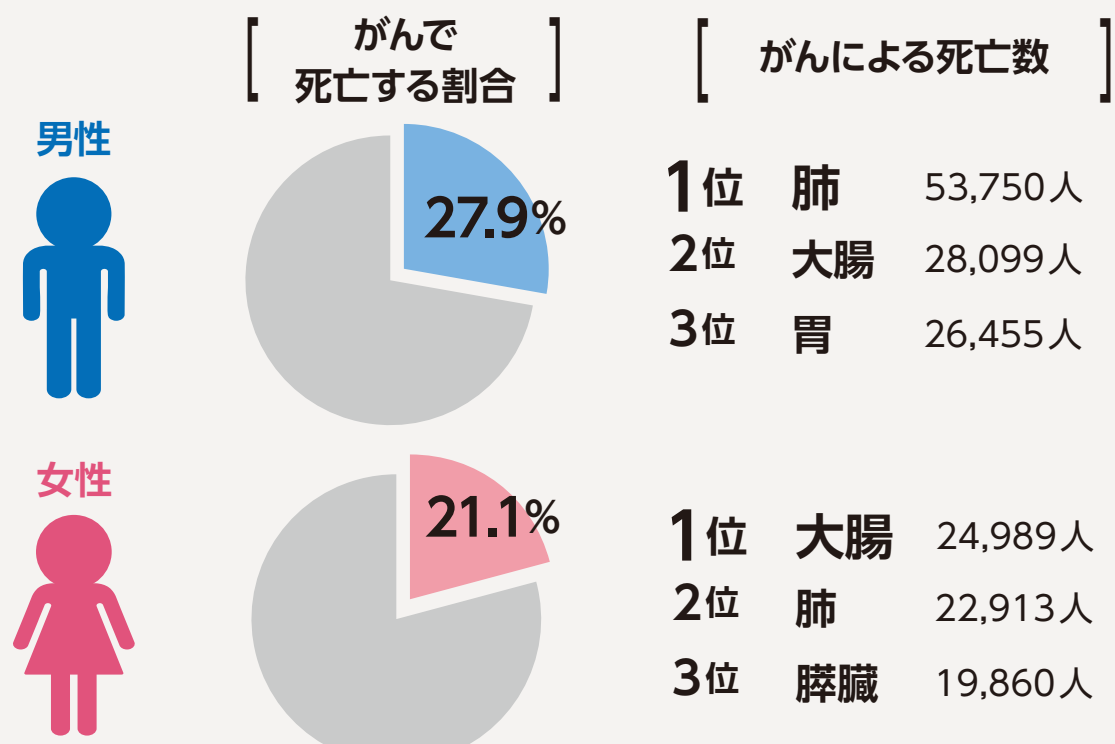
がんは身近な病気です。



(国立がん研究センター がん情報サービス がん統計「全国がん登録罹患データ」(2019年)より)

男性4人に1人、女性5人に1人が **がんで死亡**

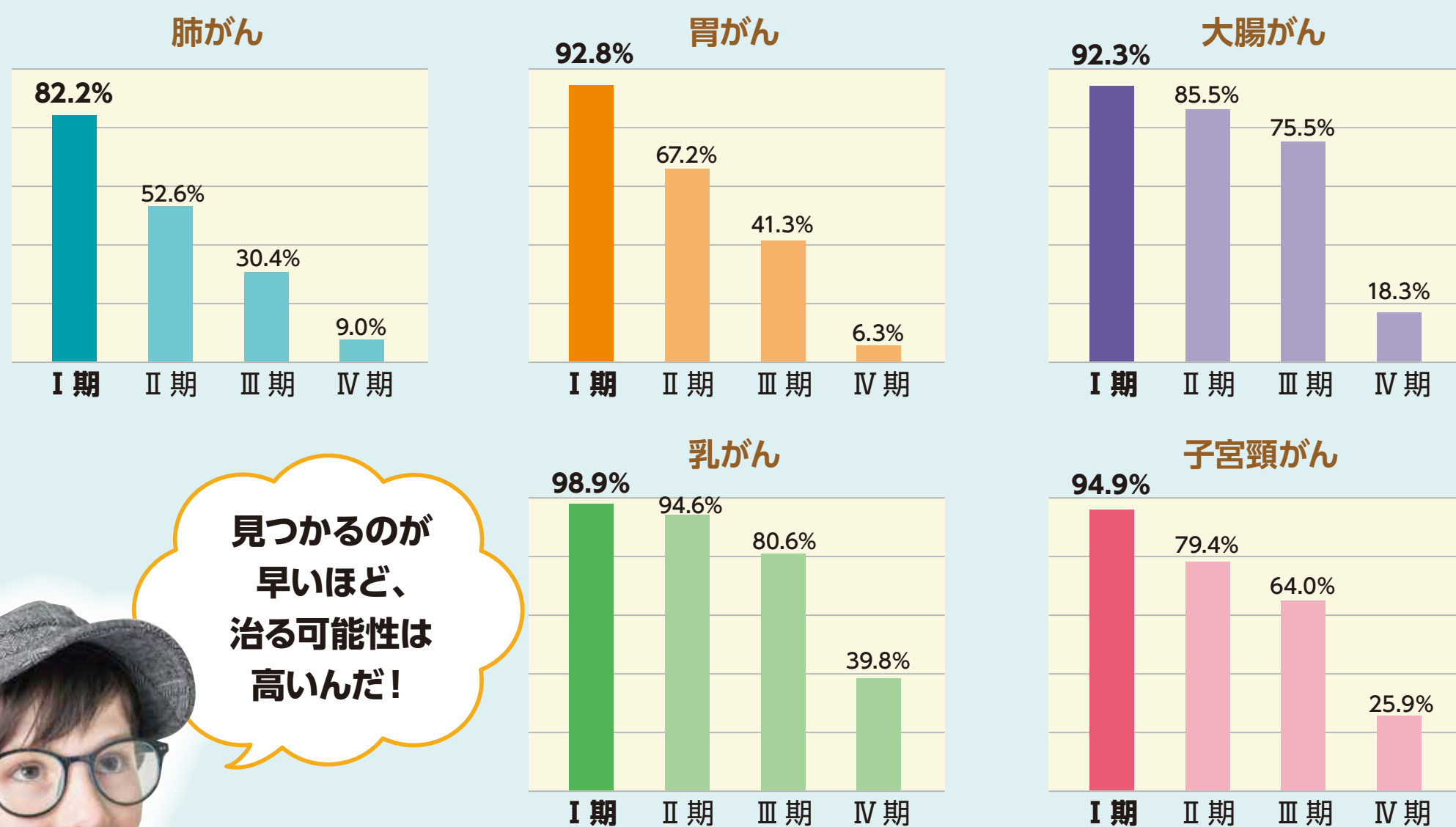
日本人の死因第一位はがんです。



(厚生労働省「令和4年(2022)人口動態統計(確定数)の概況」(2022年)より)

早期発見で 生存率は8割以上！

【ステージ別でみた5年生存率】



見つかるのが
早いほど、
治る可能性は
高いんだ！

(国立がん研究センター がん情報サービス「2014-2015年5年生存率(ネット・サバイバル)」より)

ステージIで発見するには やっぱり「がん検診」。



がんは、初期段階では自覚症状がないことがほとんどです。症状が出る頃には、すでに進行して手遅れになってしまうことも。早期発見・早期治療で死亡リスクは減らせます。無症状であっても定期的にがん検診を受けましょう。ぜひご家族にも受診をすすめてください。

「要精密検査」の通知がきたら…

検診で異常が見つかったら、精密検査で詳しく調べてがんかどうかをはっきりさせなくてはなりません。がんかもしれないとわかっていながら放っておくのは危険です。命を守るために、半日だけ時間をつくってください。がんではないと安心するためにも精密検査を受けましょう。

【精密検査を受けた人のうち、実際にがんが見つかった人の割合】

胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
1.88%	1.74%	2.60%	1.05%	4.88%

(厚生労働省「令和3年度地域保健・健康増進事業報告の概要」より)

けんぽお知らせ板